

## International Conference on New Thinking in Economic Theory and Policy 実施報告書

日時： 2014年9月13-15日

場所： 明治大学駿河台校舎リパティタワー及びアカデミーコモン

国際会議「経済理論と経済政策に関する新しい思考に関する国際会議」を上記の日程で実施した。この国際会議は、国際学術雑誌 *Review of Keynesian Economics*(エドワード・エルガー社刊)及び *Journal of Economic Structures*(シュプリングァー社刊、環太平洋産業連関分析学会の協力による)の Co-sponsored conference として開催された。報告論文のいくつかについては、上記の2つの英文ジャーナル、及び明治大学政治経済学部の発行するオンラインの英文ジャーナルである *Meiji Journal of Political Science and Economics* に投稿されている。

この国際会議のメインゲストはハインツ・クルツ教授(グラーツ大学、元ヨーロッパ経済学史学会会長)であるが、招待講演は、以下のように非常に重要な講演が行われた。

黒田昌裕教授(慶応大学名誉教授) 9月13日

Challenges on Input-Output Analysis

- How to Assess Impacts of R&D Investment on Productivity Gains -

Jan Toporowsky 教授 (ロンドン大学 SOAS) 9月14日

The Keynesian Revolution from the Perspective of Kalecki

Heinz Kurz 教授(グラーツ大学シュンペーターセンター長) 9月14日

Adam Smith on Markets, Competition and Violations of Natural Liberty

Louis Philippe Rochon 教授(Laurentian 大学准教授) 9月15日

Rethinking the Fiscal Multiplier: Incorporating Banks and Endogenous Money

久保庭眞彰教授(一橋大学名誉教授・特任教授) 9月15日

Theory of International Trade in Value-Added Revisited

Heinz Kurz 教授(グラーツ大学シュンペーターセンター長) 9月15日

David Ricardo: Elucidating economic principles vis-à-vis of a labyrinth of difficulties

である。

参加者全体では130名になっており、海外から12か国25名の参加者があった。海外からの参加者の国籍は、イギリス、フランス、ドイツ、オーストリー、ロシア、イスラエル、インド、インドネシア、ニュージーランド、アメリカ、メキシコ、カナダである。報告も40報告を超え、またセッションの司会としても多くの方々に協力していただいた。

毎年9月に継続しているこの国際会議は、若手の研究者や大学院生にも報告の機会を与えており、毎年海外からも若手研究者や大学院生の報告がある。今年の国際会議では、ロンドン大学 SOAS やパリ第13大学の若手研究者やスタンフォード大学の院生の報告もあった。また明治大学政治経済学研究科からも2名の報告があった。大学院生も多く参加した。

若手にとっても非常に有意義な国際会議となっている。

プログラムの詳細は、以下のホームページ

<http://www.kisc.meiji.ac.jp/~confyagi/Program&Papers2014.html>

を参照。

なお、国際会議の運営に当たっては、明治大学関係では、里見常吉名誉教授、河合正弘特別招聘教授、勝悦子副学長、武田巧教授、堀金由美教授、高橋一行教授、柴田有祐講師に司会等での協力を得た。また、学部の八木ゼミ生には、毎年ボランティアで国際会議の運営に協力をしていただいている。

報告者：八木尚志